

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
ご利用いただきたくご案内いたします。
当社におきましては、皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽
を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほど、
よろしくお願い申し上げます。

敬 白

記

■ 実施日 平成 24 年 7 月 2 日 (月) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容 器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)	備考
Y5162	sFlt-1	血清 0.5	↓ X	凍結 (21日)	2~4		ECLIA	(pg/mL)	
Y5170	PlGF	血清 0.5	↓ X	凍結 (7日)	2~4		ECLIA	(pg/mL)	

- sFlt-1 (soluble fms-like tyrosine kinase1)
- PIGF (placental growth factor)

妊娠高血圧症候群の早期発見に期待されている2つのバイオマーカーの測定を開始します。

妊娠高血圧症候群（PIH）は、以前は「妊娠中毒症」と呼ばれていましたが、高血圧を主体とする定義に改められ、名称も変更となりました。

PIHは、重症化すると母児の予後に大きな影響を及ぼす疾患で、根治的な治療がなく対症療法が中心となることから、できるだけ早期に発見することが重要となってきます。しかし、PIHを予知する決定的な方法がないため、いくつかのリスク因子（高血圧や糖尿病、肥満、高齢、若年、初産など）や検査結果から推定されていました。

最近、胎盤で産生される血管新生因子「PIGF」とその受容体結合を阻害する「sFlt-1」が、PIH早期発見の可能性の高い予知マーカーとして注目されています。

胎盤形成においては、PIGFなどの血管新生因子が産生され、胎盤血管系の再構築が活発に行われます。しかし、正常妊婦と比較して、PIH患者では、血管新生因子の活性を抑制するsFlt-1が増加し、PIGFは低下しアンバランスになることが分かってきました。胎盤血管再構築の異常は、血流の低下、低酸素状態を招き、血管内皮機能の低下を引き起こすと考えられています。

また、sFlt-1は、PIHの臨床症状が発現する以前から増加していることが報告されています。

▼疾患との関連

- 妊娠高血圧症候群（PIH：pregnancy induced hypertension）

▼検査要項

検査項目名	sFlt-1	PIGF
項目コード No.	Y516 2	Y517 0
検体量	血清 0.5 mL	血清 0.5 mL
容器	X（ポリスピッツ）	X（ポリスピッツ）
保存方法	凍結保存してください。	凍結保存してください。
所要日数	2～4 日	2～4 日
検査方法	ECLIA	ECLIA
基準値（単位）	(pg/mL)	(pg/mL)
検査実施料	未収載	未収載
備考		

●参考文献

Stefan Verlohren, et al: American Journal of Obstetrics Gynecology 202 (2) , 161.e1～161.e11, 2009.
(検査方法参考文献)

月森 清巳, 他: 日本産婦人科学会誌 59 (9) : 373～377, 2007.